— ◆◆　2017年度共同研究グループ　成果報告　◆◆ —

中国語教育を目指す日中対照言語研究 －類別詞を中心に

夏　海燕／彭　国躍／加藤　宏紀

類別詞はそれぞれの言語話者がどのように世界を切り分け、カテゴリー化するかを反映し、「人間がどのように森羅万象を認識してそれを名詞に反映させているか（水口 2004）」を表す言語表現とされ、近年注目を浴びるようになった。中国語と日本語には、量詞と助数詞という用語こそ異なるものの、ともに類別詞に当たる文法カテゴリーが存在する。渡辺（1952）、三保（2000・2004）などの先行研究は通時的な考察を通して、日本語の類別詞は中国語から入ってきたものが多いことを検証した。しかし、それぞれ独自な変化を遂げ、その結果、両言語の間にかなりのずれが生じるようになり、かえって習得の難点になる。本研究では、日本語を母語とする中国語学習者を対象に、習得の実態調査を行い、学習者の類別詞習得状況、誤用のパターン及び誤用を招いた要因を究明する。2017年度は本学外国語学部中国語学科2年生から4年生を対象に、同じ課題について作文を書かせ、データを収集するという形でパイロット調査を行った。今後はパイロット調査の結果を基に学生の数を増やして、本調査を行う予定である。また、言語研究の成果を教育現場への還元・応用を目指す。